

希望をもって生きる釧路チャレンジ

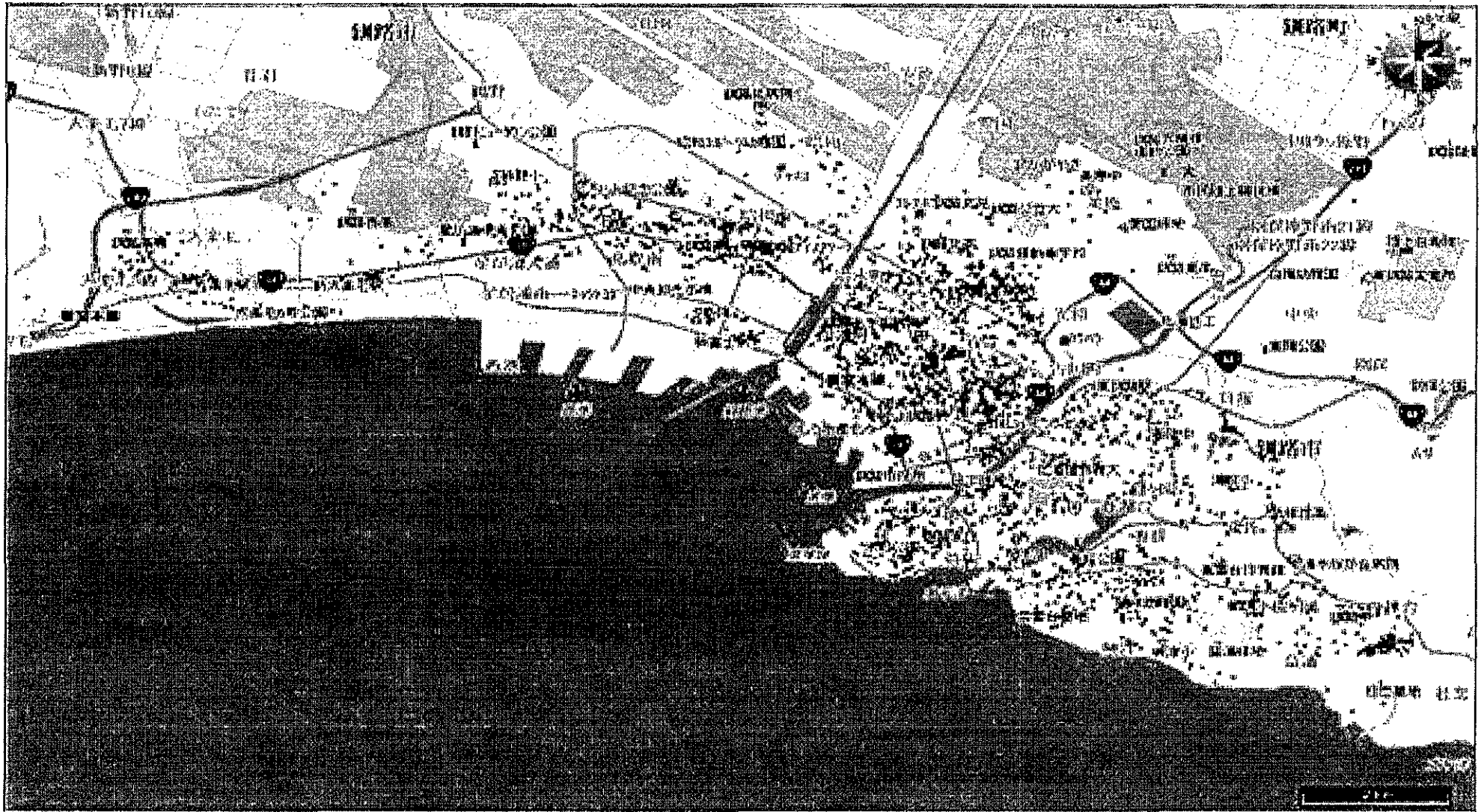
地域の資源とつながりながら取り組む

～ 生活保護受給者自立支援 ～

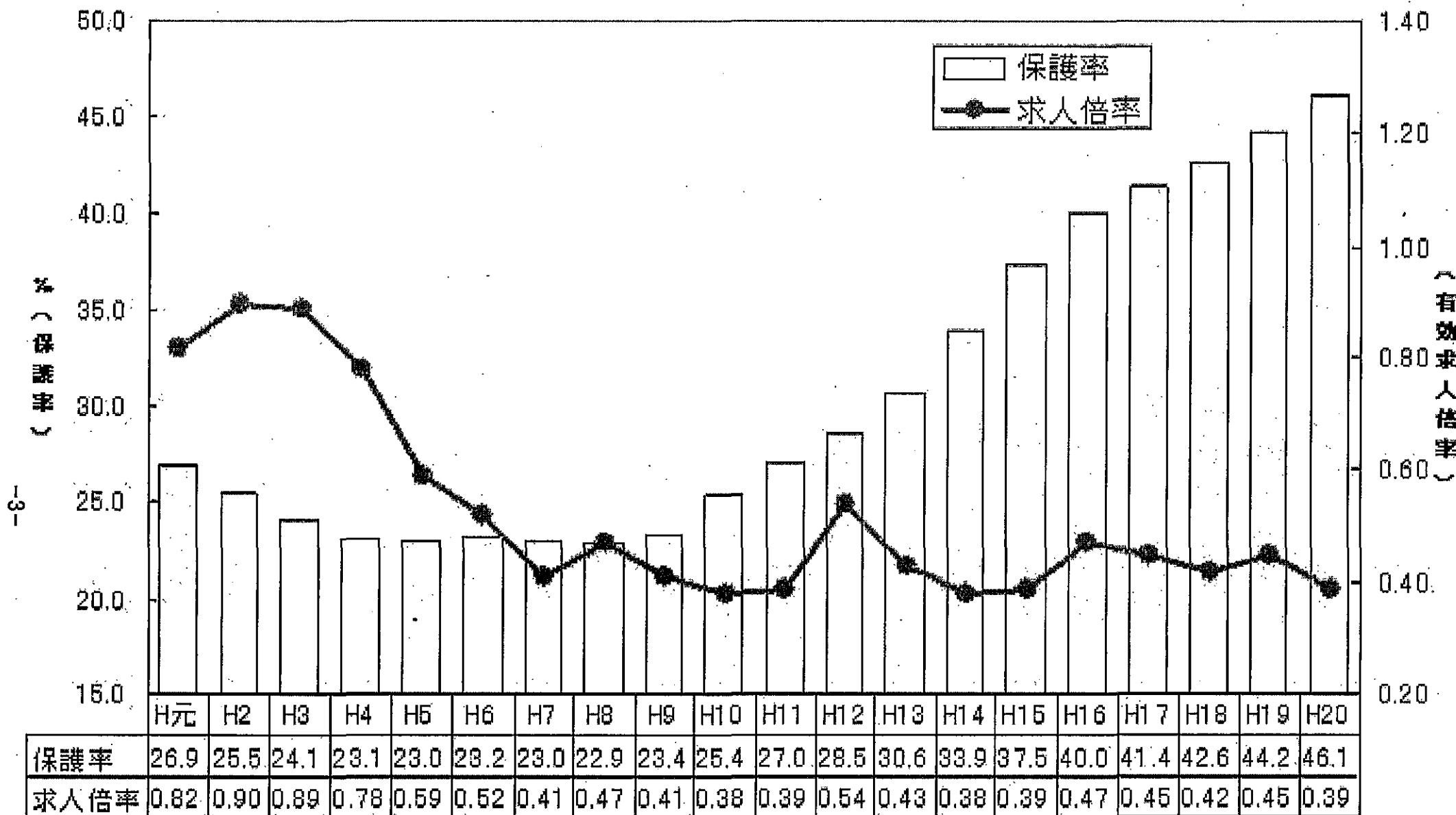
2010-4-5 「社会的居場所と新しい公共」

北海道釧路市福祉部生活福祉事務所

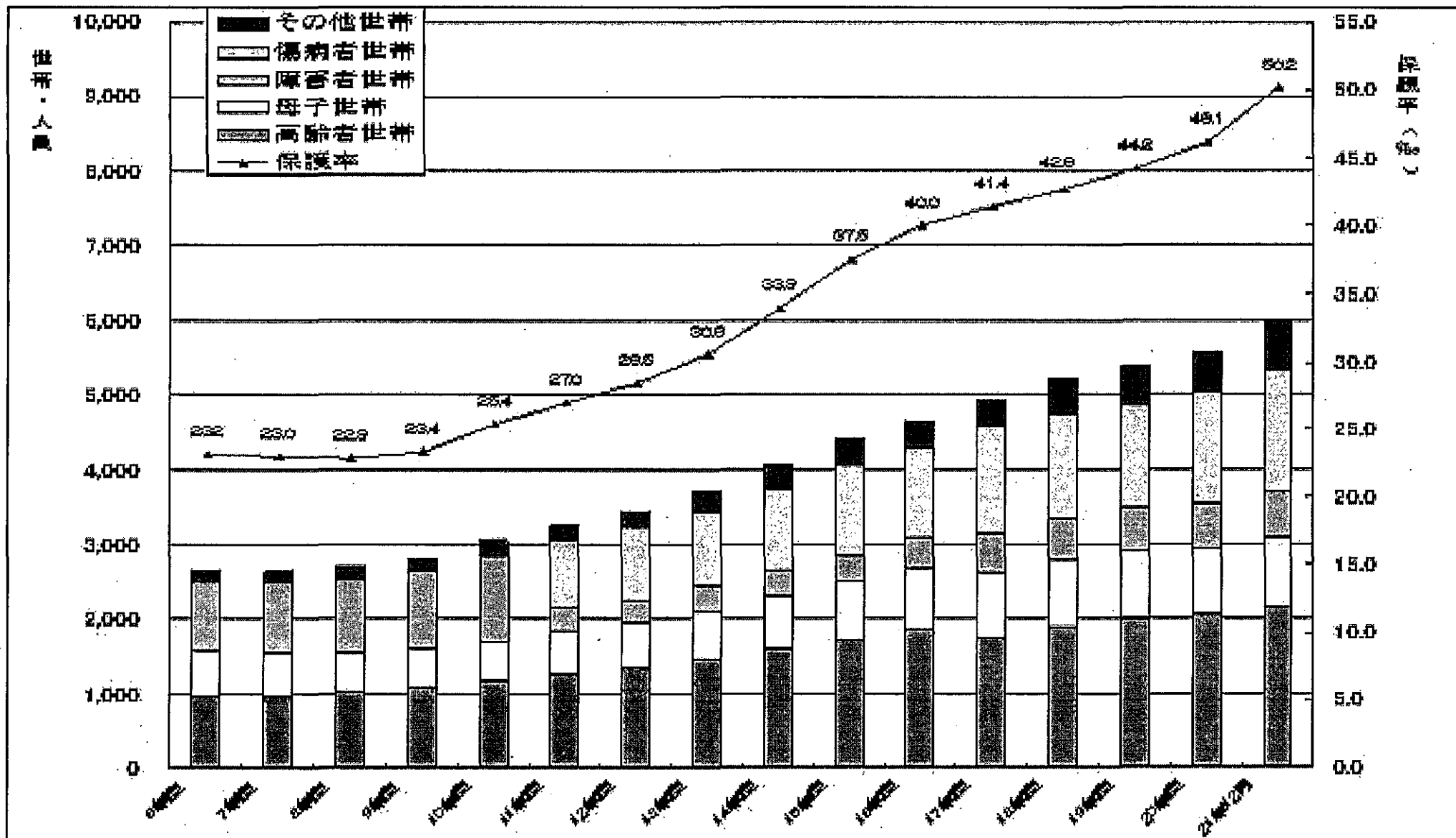
生活支援主幹 楠部 武俊



水産・石炭・紙パルプ地域経済の衰退⇒生活保護が一身に背負う。市民20人に1人が受給する

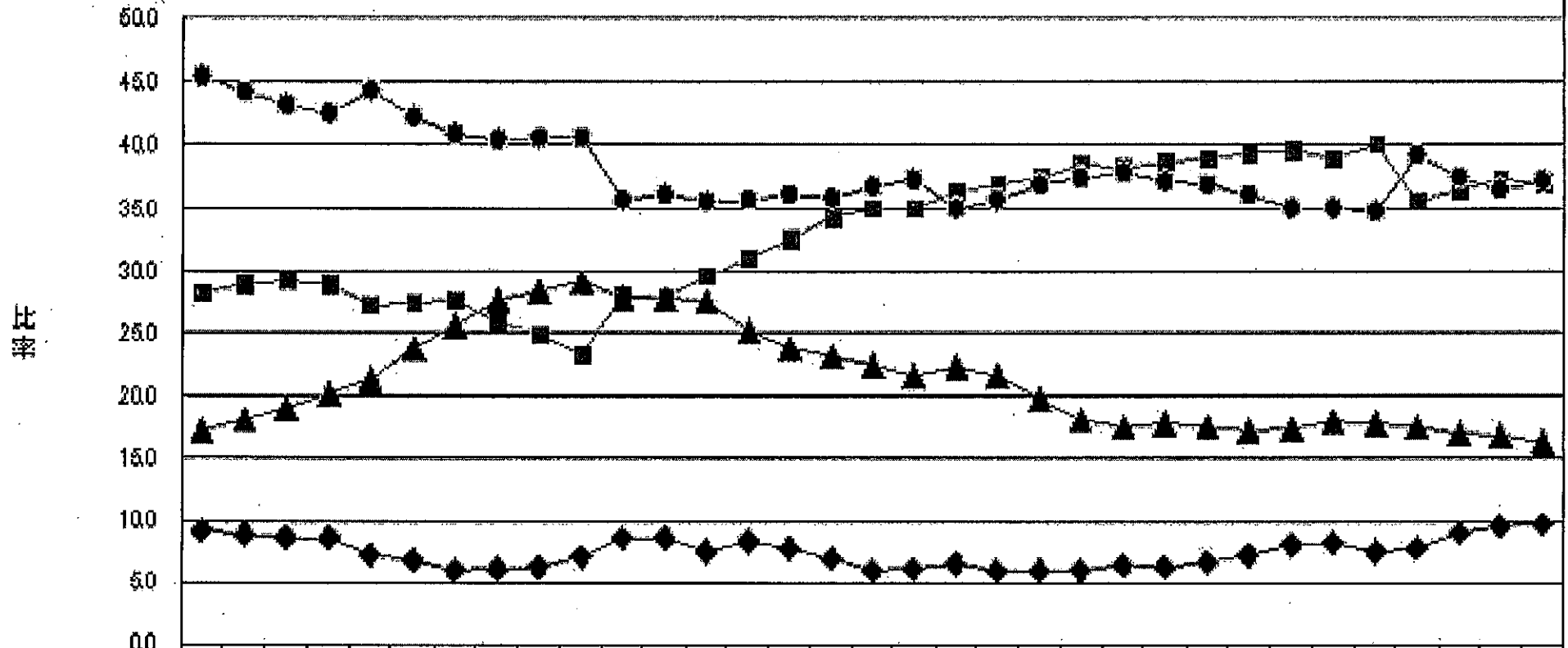


この10年0.4~0.3の有効求人倍率・あっても4割近くが
パート



高齢者世帯が比較的少なく、母子世帯が全国の2倍、その他世帯の割合が2桁に

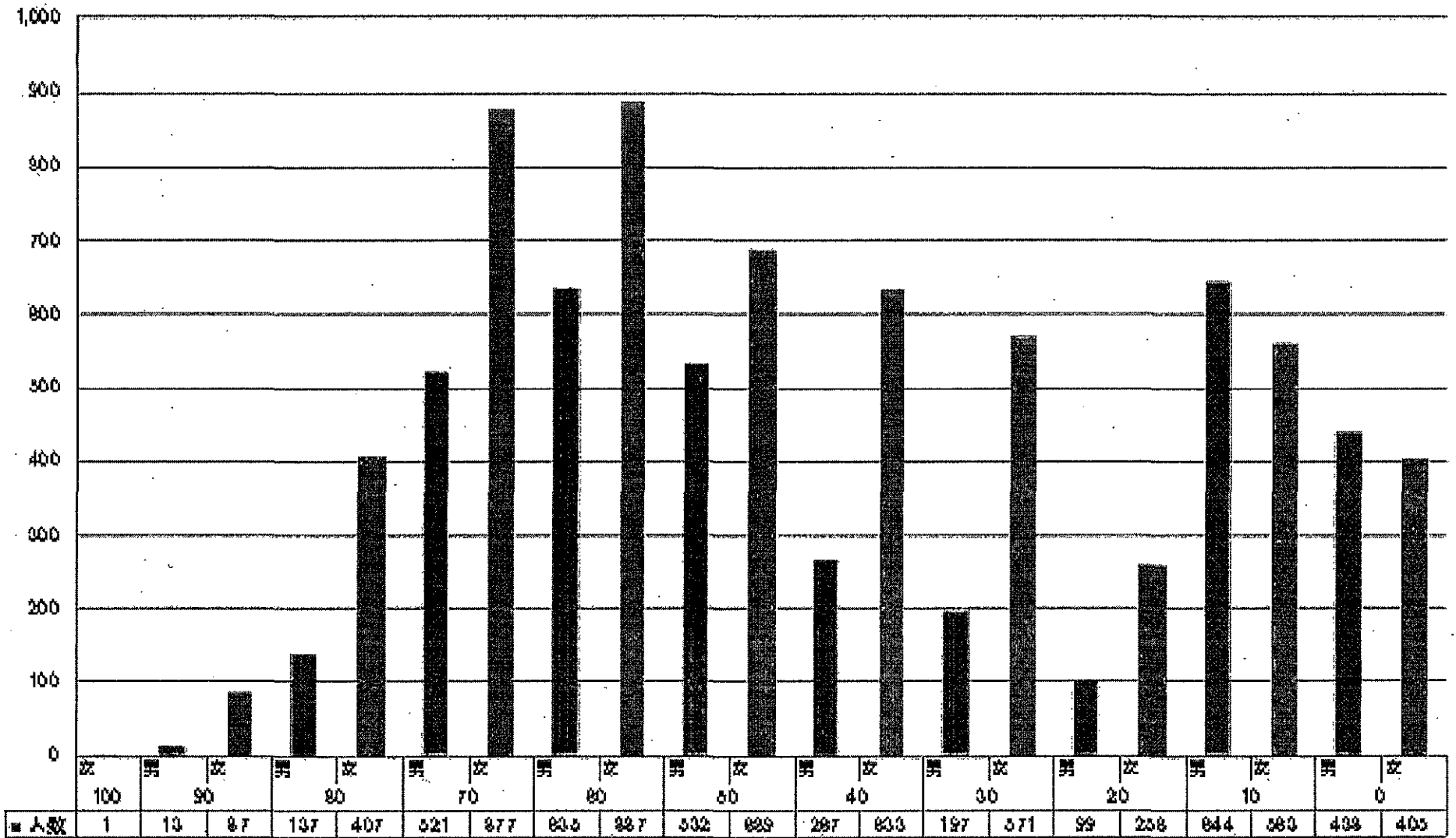
世帯類型別比率の推移



	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
一高世帯	29.2	29.9	29.1	29.9	27.2	27.9	27.8	23.9	24.9	29.2	29.0	27.7	29.6	30.9	32.3	34.0	34.9	33.0	36.0	36.9	37.3	39.3	39.0	39.7	39.9	39.4	39.6	39.9	40.0	33.3	36.3	37.0	37.0																																																									
母子	17.0	18.1	19.1	20.1	21.0	23.9	23.8	27.8	29.0	29.1	27.9	27.9	27.3	23.2	23.7	23.0	22.4	21.6	22.2	21.3	19.7	19.1	17.3	17.9	17.8	17.3	17.4	17.9	17.3	17.9	17.3	17.0	16.9	16.3																																																								
独居・同居	43.4	44.2	43.2	42.3	44.0	42.2	40.9	40.3	40.6	40.6	33.7	38.0	33.3	33.8	36.0	33.8	36.7	37.3	33.0	33.7	36.9	37.4	37.9	37.2	36.9	36.1	33.0	33.0	34.7	33.2	37.3	36.4	37.1																																																									
子供の世帯	9.1	8.8	8.6	8.6	7.2	6.7	3.9	6.1	6.2	7.1	8.3	8.3	7.4	8.0	7.9	6.9	6.0	6.1	6.3	3.9	3.9	6.0	6.4	6.2	6.6	7.2	8.0	6.2	7.3	7.6	9.0	9.3	9.6																																																									

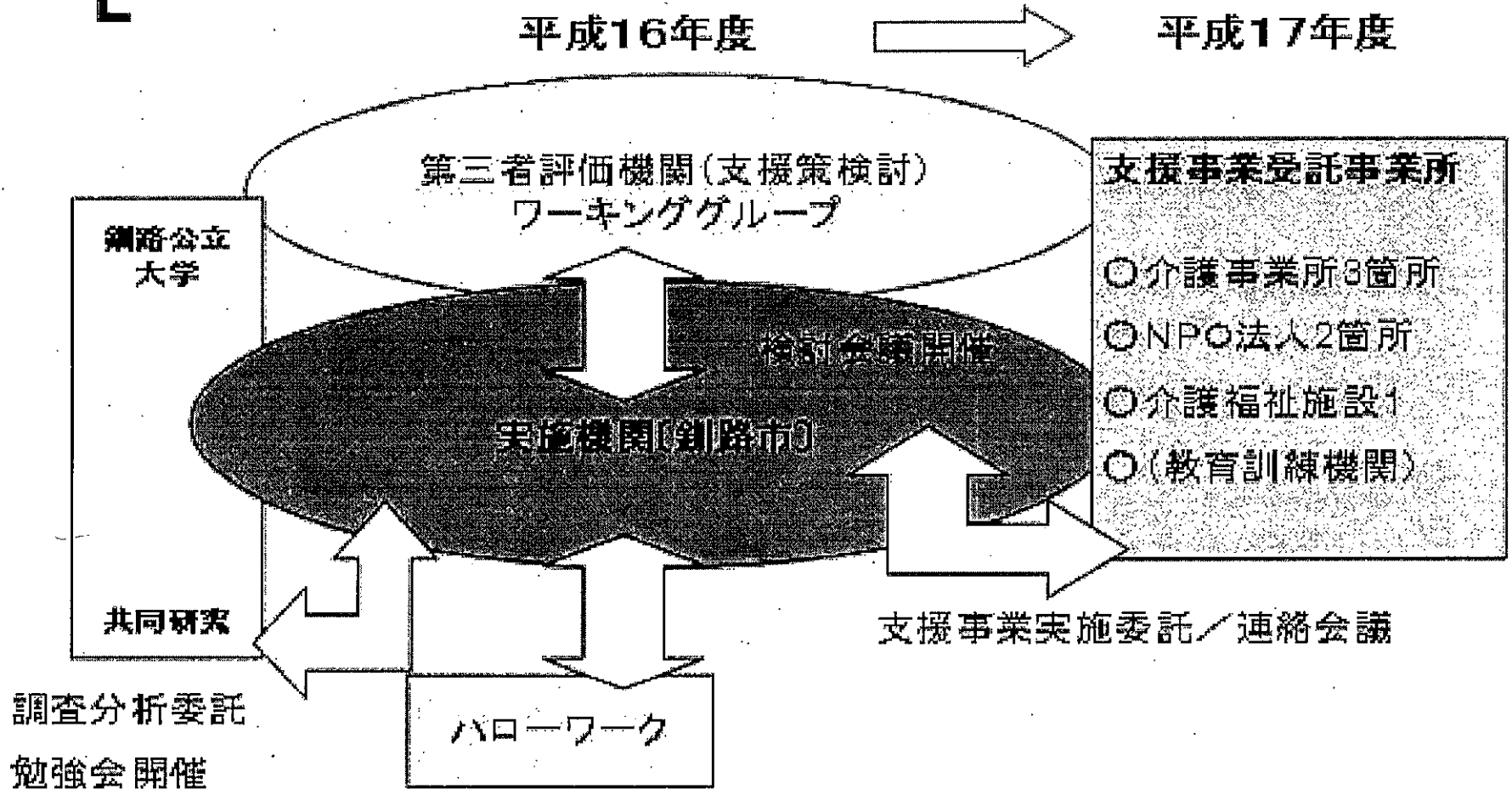
長期的には少子・高齢化の基調

男女別被保護人数(H21.4.4)



女性6割・男性4割、女性の「自立」に課題

全体構図(策定と推進)

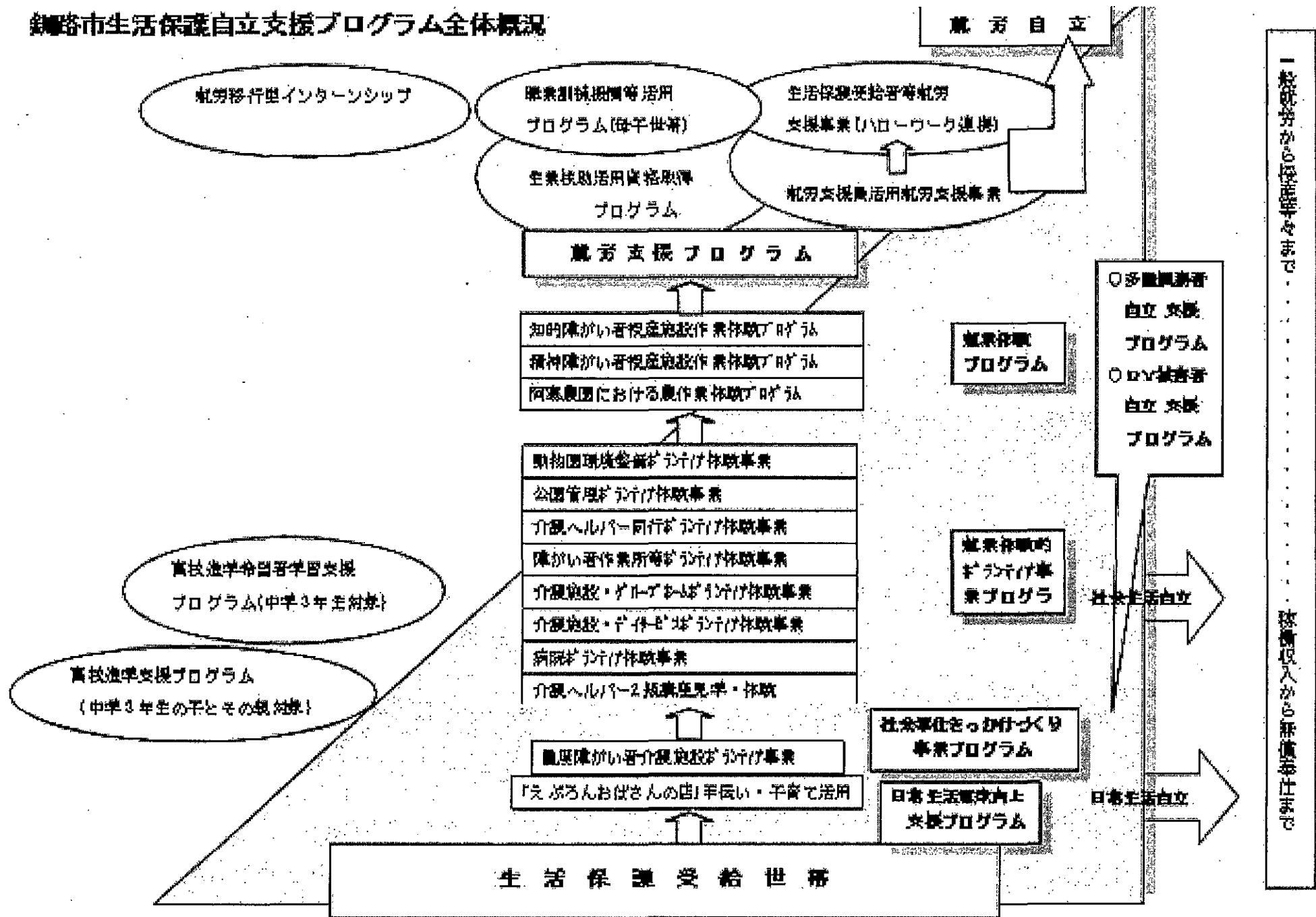


-7-

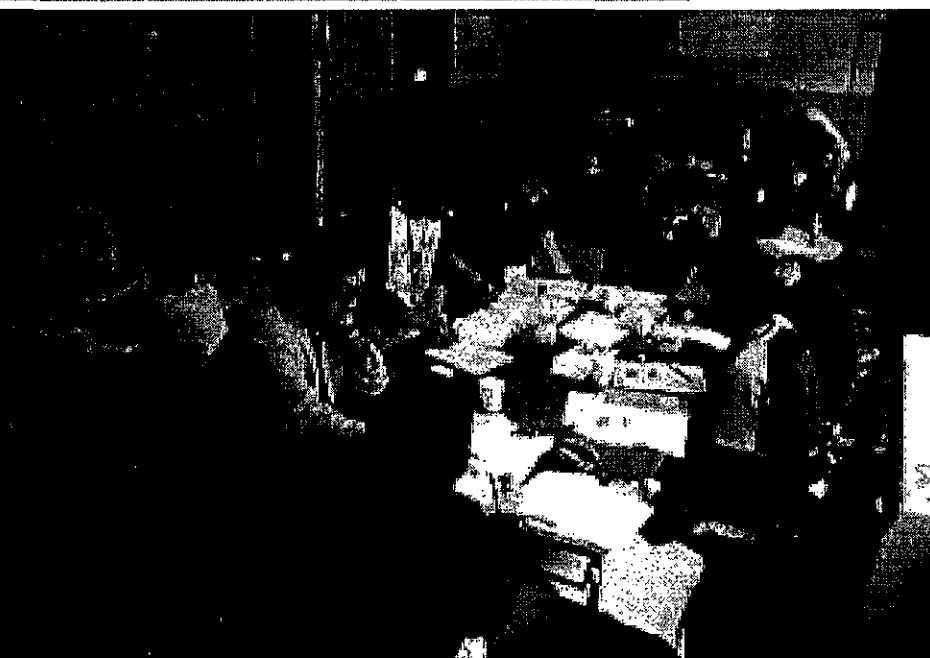
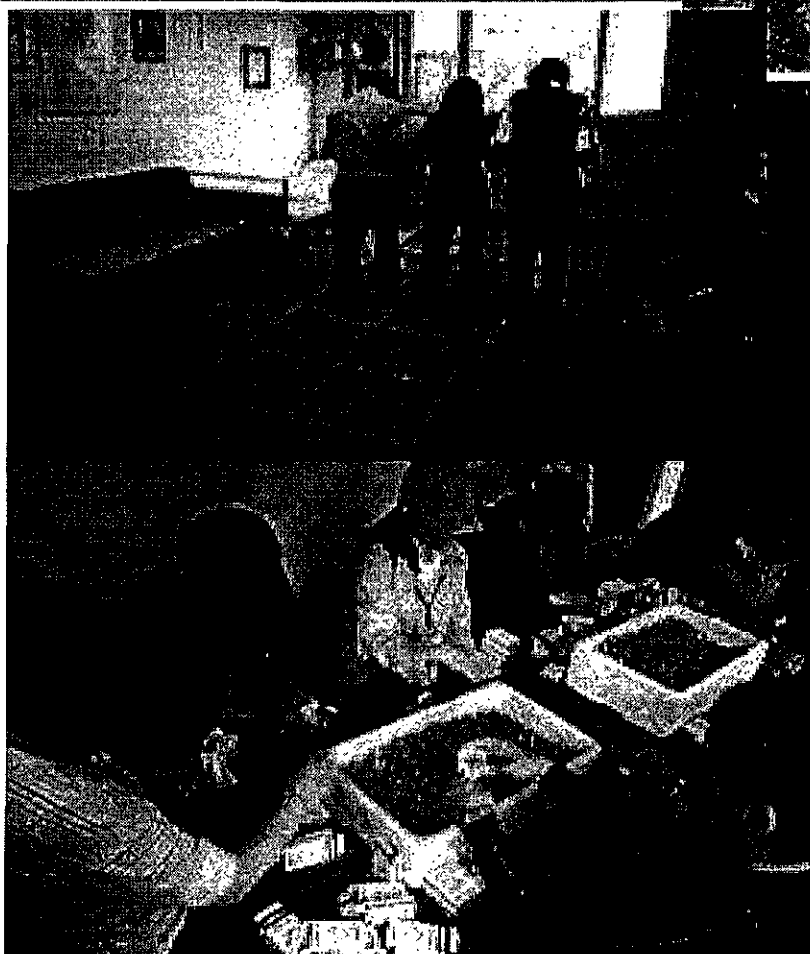
参考資料

地域と一緒に分析・支援策の検討・策定・実施した。

釧路市生活保護自立支援プログラム全体概況

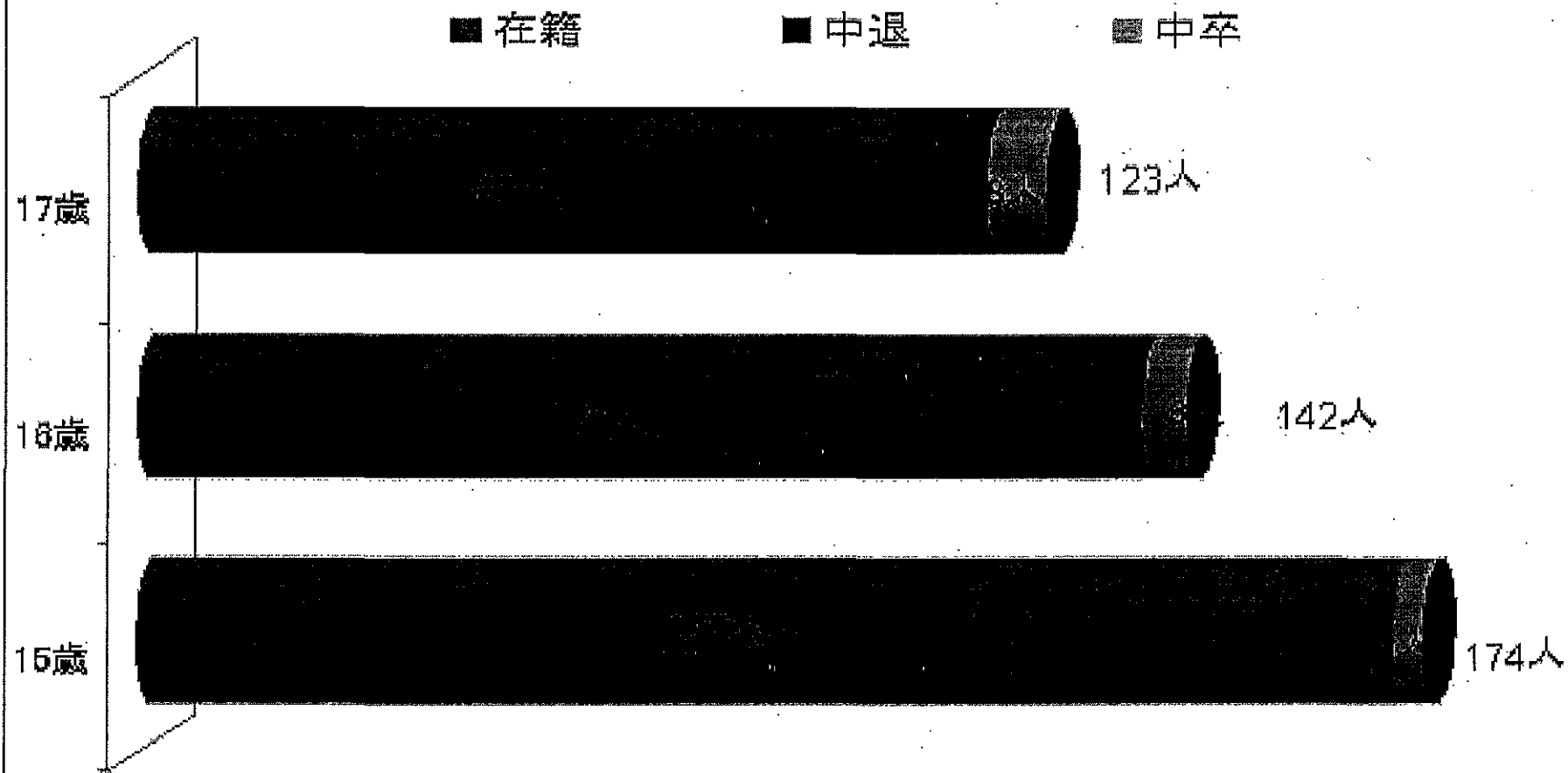


稼働能力のALL or NOTHING ⇒段階的・中間的な就労を地域資源の中で。多様な働き方・・・自尊感情・居場所など関係づくりに『自立の芽』をみようとする



就労体験ボランティア等の様子

高校年齢別（15～17歳）の在籍・中退・中卒数



H21年4月末

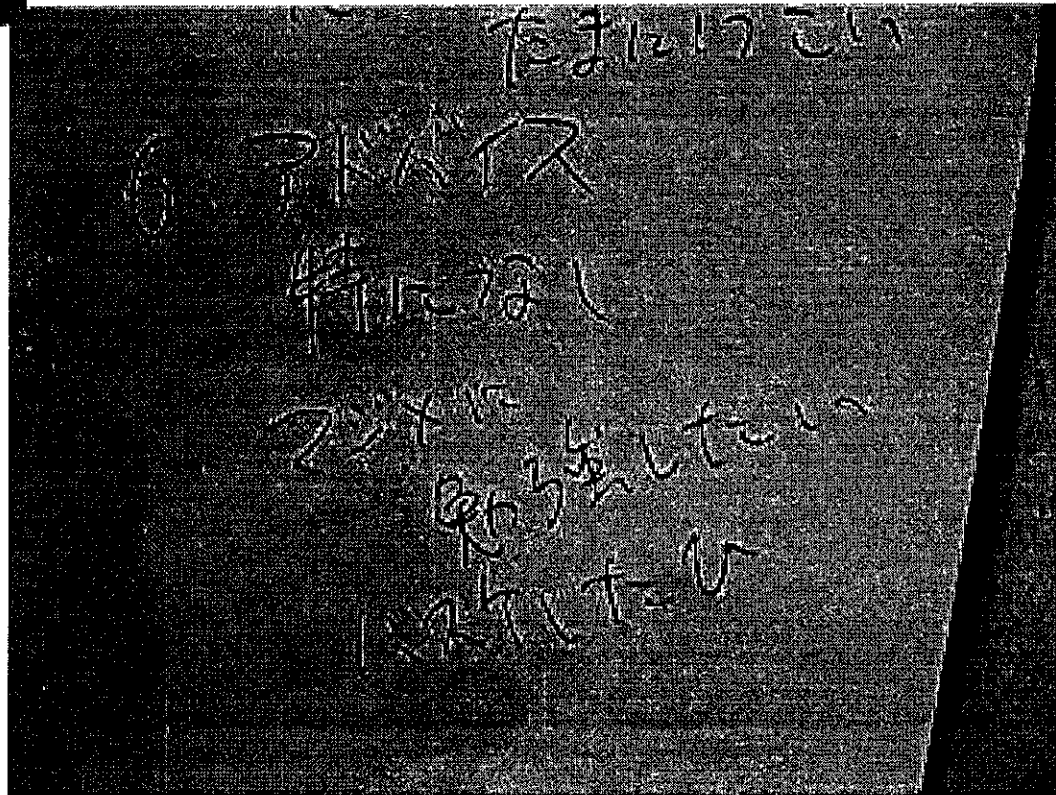
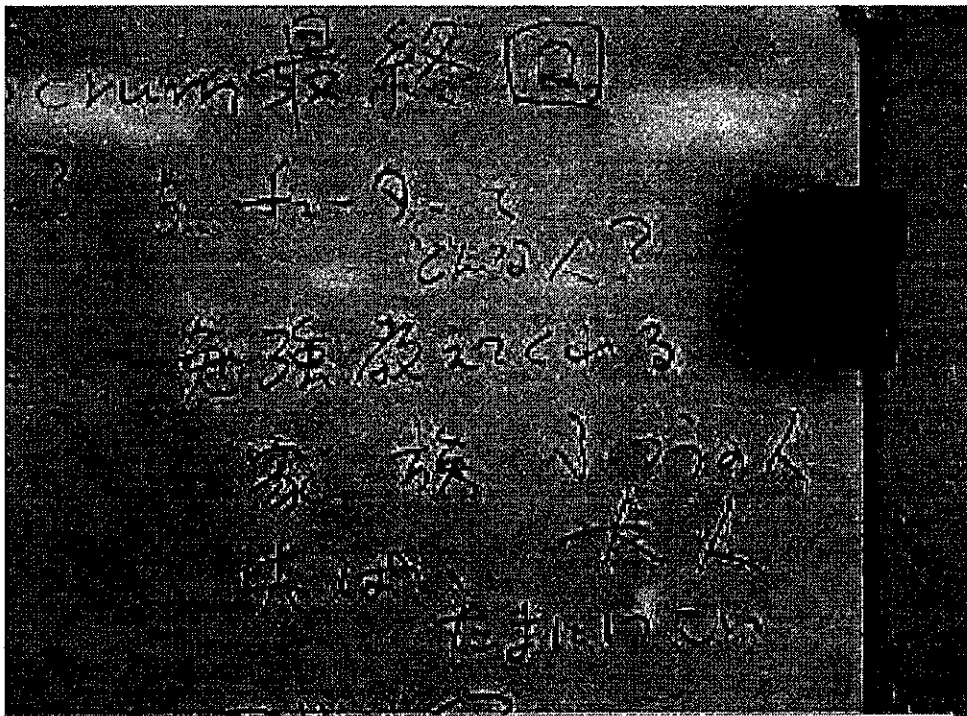
20年1月から高校行こう会をNPOと協同3年目。高校中退に歯止めがかかる可能性。高校卒業後の支援課題も出てくる

2/21
1. 何の變化か？
明瞭な文
人知直文
...
...

果ては...
案...
...
自由...
...

3期乙と！
2. 何の...
...
...
...

...
...
...
...



2010年3月21日の
お祝い会
子ども達の意見

子どもたちは語る

- ☆ 『(先生は)今は、勉強できる人だけに当てる。勉強がわからないので、ただ教室にいるだけ』
- ☆ 『(クラス一緒だけれど)ここにこなかったら私たちきっと口をきいてなかったよね。付き合わない人種だ(笑)』
- ☆ 『いろんな奴がいるんだな』と思った。

親の気持

- ☆ 自分一人で勉強するにも不安や限界がある。子どもが『学校よりもわかりやすい』と言っていた。
- ☆ 子どもから『勉強が楽しい』という言葉が9年間で初めて聞いた。今まで一度もなかった。本人もやろうという気になっていると思う。もっとこういう会があれば違ったのかな…。
- ☆ 一人で勉強すると言ってもそんなにすすむものではない。土日仕事に行っているので目が届かない。親としてはこのような会にいってもらうと安心。
- ☆ 毎日『今日はどうだった?』と聞くと子どもが『今日はこんな人が来て上手に教えてもらった』など楽しそうに様子を話してくれる。

コミュニティー問題としての生活保護(130億円・20人に1人・役割を失い、名も無き人が増えること)

☆自立支援の歩み6年を振り返って☆

- ①同好会から正式部活になった段階。正課授業になるためにはWG会議再開するなどプロセス(検討・まじわり)が大事
- ②居場所としての地域資源とその質に、傷つきからの回復、自尊感情の回復そして新たな自分形成への可能性
- ③受給者のエンパワーメント、双方向性の視点は支援の核心
- ④公的セクターとインフォーマルセクターの関係はパートナー(パートナーとして認め合う・連携という言葉でオブラートしない)
- ⑤『保護廃止、稼働収入増』評価と共に『意欲・笑顔などの新しい評価』を。情報公開など地域に拓かれた福祉事務所